

# 飯田市これからの学校のあり方審議会において ご議論いただく内容

## ■ これまでの経過

- ① 令和2年に「飯田市少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会」を要綱設置し研究を進め、令和5年度からはこの研究会を発展させた「飯田市これからの学校のあり方審議会」を条例設置し、教育委員会からの諮問に基づき審議を進めてきた。
- ② 審議会では、目指す教育の姿の変化、進む少子化、学校施設の老朽化など教育を取り巻く環境変化を捉えつつ、これからの時代の教育に対応したより良い教育環境づくりに向けた「これからの学校のあり方」について、「飯田市立小・中学校のこれからの配置・枠組みのあり方について」、「特色と魅力ある教育活動のあり方について」の2点を審議いただき、第一次として「イ」について令和6年10月に答申をいただいた。
- ③ 令和7年度からは、審議会からいただいた「飯田市の学校を取り巻く教育環境の変化への対応に必要な方策について(一次答申)」を基本に、広く市民からの意見も踏まえ策定した「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第1次～」に基づき、各中学校区内の小中学校を「学園」として9年間の小中一貫教育を推進する「飯田学園構想」がスタートしており、小中一貫教育を強力に進める態勢、教育環境の整備に注力している。

## ■ 今後の議論

- ① 今後、「飯田学園構想」を着実に実施し小中一貫教育の充実を図り、特色があり魅力的な教育を進めるにあたり、小中学校の配置・枠組みはどうあるべきかという視点から、諮問事項「飯田市立小・中学校のこれからの配置・枠組みのあり方について」、先を見越した議論として、審議会で議論を進める。
- ② 現段階で当市は、学校再編の基本的な考え方やあり方を定めそれに向かって教育委員会主導で再編を進めていくトップダウン方式をとっておらず、学園地域の課題感や危機意識の状況を見定めながら、協働で学園内の学校のあり方を検討していくボトムアップ方式をとっている。
- ③ 今後の審議では、ボトムアップ方式のメリット・デメリット、これまでの議論を踏まえた学校の規模(小規模教育のメリット・デメリット)、今後の学校施設の配置のあり方を優先的に検討する学園やその検討の進め方、定めることの必要性も含めて当地域の地域的・地理的特性等を踏まえた望ましい学校の規模等について議論を進め、令和7年度から令和8年度の2カ年で一定の方針を示したい。

# 第2次方針の基本的な考え方

## ～令和6年度の第6回審議会において提示した視点と今後の論点～

基本

方針

第1次方針「飯田学園構想」を着実に実施し小中一貫教育の充実を図ることを第一に、飯田市立小・中学校のこれから配置・枠組みのあり方についての議論を進める。

なお、具体的に学校施設の配置・枠組みを検討するに際しては、以下の5つの視点を持って検討することとする。

### 視点 1

児童生徒の教育環境の充実を最優先に考える。  
ただし、学校は地域の将来の担い手や支え手となる人を育てる機能を有していることにも配慮する。

### 視点 2

個別の学校の状況だけでなく、学園内の学校全体の状況を考慮する。

### 視点 3

保護者や地域の課題意識の高い学園や、安全面で課題があると考えられる学園を対象とする。

### 視点 4

具体的なあり方の検討では、保護者、学校教職員、住民の代表者、教育委員会事務局の職員で構成する検討組織を組成し協議を重ねて方向性を定めていく。

### 視点 5

教育移住の促進等の児童生徒数の維持・増加に向けた取組を地域をあげて推進することが見込める学園は、その取組の効果を考慮する。

論 点①

「飯田学園構想」を着実に実施し学園において特色があり魅力的な教育を進めていくための教育環境とはどのような状態なのかを、地域における児童生徒数及び施設の面から検討する。

論 点②

学園地域において、あり方検討に入る契機設定の有無(設定する場合の基準)及び検討体制を検討する。

取 組

学園地域の特徴を考慮したあり方検討のポイントを実例から抽出し普遍化する。

# 第2回審議会での審議について

## 第2回審議会での審議の目的

### これまでの審議の経過から…

- 「飯田学園構想」を着実に実施し学園において特色があり魅力的な教育を進めていくための教育環境とはどのような状態なのかを、地域における児童生徒数及び施設の面から検討する。
- その検討方法としては、学校のあり方の検討が地域コミュニティの活性化あるいは衰えている家庭の教育力の再生、地域の教育力の再生に繋がる手続き・手順であり、取組である観点からボトムアップ方式が妥当であるが、地域課題に対する対応策としての案、あり方検討に入る契機の設定、検討体制などを含め、行政及び教育行政のスタンスや関与具合に関わる方向性を具体化する必要があり、それが第2次答申につながる。

本日の審議会で委員の皆様に意見交換をお願いすること

遠山郷学園内小学校の再編に向けた取組から

第2次答申に向けた論点抽出

遠山郷学園内の小学校再編の取組を参考実例として、今後、地域・保護者・学校・教育委員会が協働して学校のあり方検討を進めるための重要な論点を抽出し、第2次答申につなげる。

# 本日の審議について

## 本日の審議の進め方

本日の審議会で委員の皆様に意見交換をお願いすること

### 遠山郷学園内小学校の再編に向けた取組から第2次答申に向けた論点抽出

遠山郷学園内の小学校再編の取組を参考実例として、今後、地域・保護者・学校・教育委員会が協働して学校のあり方検討を進めるための重要な論点を抽出し、第2次答申につなげる。



先行事例報告  
玉置委員から  
ご報告



個人ワーク①  
資料No.9で  
個人ワーク



グループワーク  
資料No.10で  
グループワーク



発表・共有  
GWの結果を  
発表・共有



コメント  
坂野委員・井出委員  
からコメント



個人ワーク②  
ワークの感想等  
を資料No.9へ

## 令和7年度 第2回 飯田市これからの学校のあり方審議会 会議録概要

開催日時	令和7年9月 29 日(月) 19:00~21:15
開催会場	飯田市役所 C311~C313 会議室
出席者	<p>審議会委員(以下敬称略)</p> <p>後藤正幸、三浦弥生、會川百樹、原 雅彦、玉置洋一、飯島政樹、松岡香代子、 山浦貞一、吉野久美、村山雅也、勝野久美恵、下沢晃世、伊藤桂子 (オンライン) 坂野慎二、井出隆安</p> <p>オブザーバー</p> <p>北澤正光(飯田市教育長職務代理)(敬称略)</p>
配布資料	<p>1 次第</p> <p>2 配席図</p> <p>3 委員名簿</p> <p>4 第1回審議会の振り返り</p> <p>5 今後の審議の方向性について</p> <p>6 遠山郷学園における学校の配置・枠組み等についての要望</p> <p>7 「遠山郷学園における学校の配置・枠組み等についての要望」に対する回答</p> <p>8 遠山郷学園における小学校の再編に向けた基本方針</p> <p>9 本日の審議について</p> <p>10 第2次答申に向けた論点整理のための個人ワークシート</p> <p>11 第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークシート</p> <p>12 第2回 飯田市これからの学校のあり方審議会 グループ委員名簿</p> <p>13 「遠山郷学園会議」の設置と検討の経過</p> <p>14 遠山郷学園だより 2025 年5月発行</p> <p>15 2025 遠山郷学園グランドデザイン</p>
事務連絡	<p>事務局から会議成立を宣言</p> <p>会議録における氏名公表を確認</p> <p>1 開会 (司会進行:後藤会長)</p> <p>2 熊谷教育長あいさつ</p> <p>○改めまして、皆様こんばんは。</p> <p>○お仕事等でお疲れのところ、夜遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>○市内小中学校では 2 学期がスタートし、小学校では運動会、中には音楽会という学校もあるかと思いますし、中学校では文化祭、学芸会という学校もありますけれども、それらに向けての準備が進んできている状況です。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、運動会や文化祭は昔と違っています。例えば、運動会では時間が午前中だけというように短くなり、今まではどうしても見栄えのいい素晴らしい発表をしようというようなことを先生たちも求めて、保護者の皆さんも、地域の皆さんも、見事な発表に感動を覚えるような運動会、文化祭だったのではないかと思いますが、今、みらい創造科の授業のあり方を考え、探究する学びに変えていきたいと考えていることも含めて、こどもの主体性を大事にして、結果の見栄えではなく、その過程を大事にするということを大事にしていただくよう学校現場にお願いをしているところです。</p> <p>○授業もそういう方向ですし、学校行事も替わってきていますので、昔と同じものさしで見てしまうと、こどもたちも苦しく、先生たちも厳しいなど感じる面があるものと思います。こどもたちが最初の段階からどのくらい成長したのか、生き生きと楽しそうに頑張って一生懸命やっているとか、そういう姿を評価をしていただくと、こどもたちも喜ぶのではないかと思しますし、そのように変化をしてきている時代だなということを改めて思っているところです。</p> <p>○さて、本日は、本年度の審議会 2 回目となりますけれども、遠山郷学園の小学校再編に関する取組から学ぶことをテーマとして会議を開催したいと思います。これまで先行的に進めさせていただいた遠山郷学園の小学校の再編に向けた準備を今まさに進めているところですが、もちろん教育委員会もこれまでのところに関わらせていただいてはおりますけれども、メインは遠山郷学園の地域の皆様方が、保</p>

護者の強い期待や声を受け、地域の皆様方の声をまとめて要望書として出していただき、今、再編という形が進もうとしているところです。ここまで至るまでに何回も会議を重ねて、そのエネルギーは、本当に大変なことであったと、感謝を申し上げるとともに、敬意を表するところです。本日は、その中の苦労されたお話をしっかりとお聞きしながら、今後の学校のあり方について、観点や視点を見い出しながら進めていければと思います。そのため、今回初めてグループワークの形で協議をしていただきますが、今後、学校のあり方について審議する中で、どういった視点・観点で議論すべきか、どのような考え方・見方をするべきか、あるいはどのように留意すべきか等を出していただければと思っております。ぜひ、グループワーク等の中で、忌憚のないご意見を出していただいて、今後に繋げていけたらと思います。本日はよろしくお願ひいたします。

### 3 後藤会長あいさつ

○私からも一言ご挨拶申し上げたいと思います。本審議会が、令和5年5月25日にいただきました二つの諮問のうち、一つの答申は終わっているわけでありますが、もう一つの答申に向けて、具体的な協議がいよいよ始まることになります。どうか皆様方、今日は初めての試みで、グループワークを実施してみたいと思いますが、快い会議にできたらと思っております。よろしくお願ひいたします。

### 4 報告事項

#### (1) 第1回審議会の振り返り

○事務局から「第1回審議会の振り返り」及び「今後の審議の方向性について」により第1回審議会の振り返りについて報告

#### (2) 遠山郷学園における小学校の再編について

○事務局から「遠山郷学園における学校の配置・枠組み等についての要望」、「遠山郷学園における学校の配置・枠組み等についての要望」に対する回答」及び「遠山郷学園における小学校の再編に向けた基本方針」により遠山郷学園内の小学校再編に関する進捗状況を報告

### 5 協議事項

#### (1) 本日の審議について

(後藤会長)

○それでは、本日の審議の進め方について、事務局より説明を受けたいと思います。

(事務局 上沼教育政策課長)

○事務局から「本日の審議について」、「第2次答申に向けた論点整理のための個人ワークシート」、「第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークシート」及び「第2回 飯田市これからの学校のあり方審議会 グループ委員名簿」により個人ワーク及びグループワークの方法について説明

(後藤会長)

○これから審議についてご説明をいただきました。

○この後、早速、検討に入りますが、初めての試みですが、円滑な協議といいますか、気持ちも楽にしながら進めていければと思います。それでは、以降のファシリテートを事務局の皆さんにお願いしたいと思います。

(事務局 上沼教育政策課長)

以降の個人ワーク及びグループワークのファシリテートは事務局が担当

#### (2) 遠山郷学園における学校のあり方検討について

(報告者:玉置委員)

○貴重な時間をいただいて、うまく説明ができるか不安ですが、遠山郷学園会議の立ち上げたこと、それから、和田小学校、上村小学校の2校の小学校の再編要望を飯田市教育委員会へ提出し、先ほどの秦野教育次長から説明があったとおり、教育委員会からご回答をいただいたことを含め、今までの経過等を含めまして、概略をお話いたします。

○まず、私たちの地域については、平成17年に飯田市に編入合併いたしました。その当時の人口が南信濃で約2,200人、上村で780人で、ちょうど合併して20年の今年8月末現在で、南信濃1,006人、上村309人と、約半分に減少しました。人口が一番多い時期は、昭和20年前後で、

南信濃は約 6,000 人、上村が約 2,600 人と、約 9,000 人弱の人口があった時代もありました。80年経過して、このような人口になっていますが、当然にして、学校の児童生徒数も、私の頃の昭和31年頃は、和田小学校で500人、遠山中学校も当時、八重河内、南和田、木沢という集落がございまして、全校で 500 人ぐらいの生徒数でした。令和7年度の遠山中学校の生徒数は 21名、和田小学校の児童は現在15名です。複式学級3学級という状況の中で学校運営が行われています。この2・3年、和田小学校の入学児童は1名という状況で、令和7年度は地元の児童はおらず、地域で取り組んでいる親子留学制度を活用して市外から一時的に児童2名を迎えて入学式を行ったというのが現実です。このような状況において、保育園、小学校、遠山中学校の児童生徒数の激減の状況は、日増しに、地域の中、保護者、学校関係者、特にまちづくり委員会等では、危機感の高まり、課題認識がされるようになってきました。両地区では、園児数、児童生徒数の減少を見据える中で、上村地区では小規模特認校制度の運用を、南信濃ではもう10年ぐらい経ちますが、やまと親子留学に取り組むなど、児童生徒数の確保に資する様々な取組を進めてきました。また、両地区が一緒になって、学校をテーマにした遠山郷フォーラムの開催やまちづくり委員会と連携して、南信濃では「南信濃1500委員会」を組織し、夢の1500人の人口規模にしていこうというような取組を進めてきました。やまと親子留学もその取組の一つであります。それから、上村ではつなぐチームという組織を組成し、子育て世代の親がこどもに上村の生活を教えるというような交流活動をして移住定住に向けた取組も行っています。

○ そういう活動を根っこにしながら、令和4年度末には、保育園から中学校までの12カ年の子ども像を共有する2園3校のグランドデザインを作成しました。お手元の資料 No.14をご覧いただきたいと思います。遠山郷学園グランドデザインは、2園3校で取りまとめたもので、裏のページを見ていただくと、タイトルは「遠山郷を愛し、誇りを持ち、未来と共に創る人づくり」をスローガンとして、保育園、小中学校、それから家庭や地域が課題共有をして取り組んでいこうと、令和4年度にみんなでまとめ上げたものです。そのように2地区が一緒に協力しながら取組をしてきた経過でございます。

○ 遠山郷学園の組織化のきっかけに関しては、先ほどお話ししたような経過を辿る中で、前年度の審議会でも度々お話しましたが、私たちの地域では、学校の再編は、待ったなしであると、まさに崖っぷちであるということを、現状認識の中で、話をしてきたつもりです。具体的なアクションとして学園会議を立ち上げ、それぞれのまちづくり委員会で諮り、遠山郷学園会議小委員会を令和6年4月に立ち上げました。構成員は、両地区のまちづくり委員会や公民館長、2園3校の保護者の代表、それからもう一つは、若年層の代表ということで未就学児童の保護者にも入っていました。そんなことで小委員会を立ち上げて、令和6年6月には、遠山郷学園会議全体会議として、学校の校長先生、保育園の園長先生にも加わっていただきました。構成員は全員で 22 名、令和6年6月6日には全体会議を開催しました。

○ この全体会議のミッションは3つございます。一つは、遠山中学校の小規模特認校の指定。これを市教育委員会にお願いすること。それからもう一つは、令和6年度末までに、遠山三校配置・枠組みについて方針を決定すること。そして、令和7年度から遠山中学校の小規模特認校の導入をスタートさせることの3つをミッションとして会議を重ねてきました。また、令和6年度の市長と語るまちづくり懇談会においても、学校の課題を両地区のテーマとしながら議論を進めたりする中で、小規模特認校につきましては、市教育委員会の皆さんにご努力いただき、比較的早い段階で認めていただいたという経過です。特に、遠山中学校の小規模特認校導入をお願いする根拠としては、遠山中学校が複式学級になる可能性があったということで、早急に課題として取組をしなくてはならないという考え方でした。複式が悪いというわけではないのですが、やはり希望としては、各学年1学級で教育活動を進めていきたいという保護者の皆さんの考え方もあるってということです。また、将来の魅力ある学校づくりに向けて、自分たち自身が学習する必要も感じる中で、学園会議で小中一貫校または義務教育学校において、施設一体型や施設分離型等の他地区の情報を集めたり、具体的には大町市立八坂小中学校の視察を行いました。

○ このような状況の中で、遠山中学校の小規模特認校制度が令和7年度に導入することに一定の目途が立ちました。しかしながら、遠山三校の配置・枠組みに関しては、なかなか腹を割った検討を進めることができませんでした。それは両地区それぞれにとって、学校が大切な場所であって、この議論の口火を切ることすらためらいを感じていたことがありました。一方、学校のあり方審議会では、令和6年10月に第一次方針が出されたものの、具体的な配置・枠組みに関しての方針は示されませんでした。今後検討される第二次以降の方針を待って遠山郷学園の検討を進めている間は、児童生徒数の状況から考えても、もう待ったなしの状況ですから、地域側から様々な方法で声を上げていく必要があるという意見が出されるようになり、両地区的まちづくり委員会

の連名で、市長・教育長へ要望、地域協議会に意見付議等の方法も視野に入れた検討を進めてきました。

- 一番苦労したのは何を大切にするかという点です。これまでの保護者の皆さんなどの意見を踏まえて、児童生徒の教育環境や地域コミュニティといった視点で議論をしてきましたけれども、学校のあり方審議会の方針を抑えた中で、ハード面やソフト面の課題を出したり、児童生徒の教育環境や地域コミュニティから見た課題を整理して、2地区の役員で議論をしてきました。
- これを基に、両地区の未満児の子育て世代の保護者も含めた、それぞれの子育て世代の皆さんと意見交換を行う中で、やはり、迅速に協議を進めてほしいということが多く提案されました。特に個人的に印象に残ったのは、遠山が好きで、ご夫婦で将来もこの遠山に住み続けたいけれど、仕事がないので、遠山に居を構えて、仕事は旧市内へ通うという保護者がいて、ここでこどもを学校へ通わせたいから、学校の配置は上村でも南信濃でもどちらでもいいという意見がありました。早く配置・枠組みを決めてもらいたいという保護者の方もおられました。何か背中が押されたような気持ちになりました。
- このような状況の中で上村・南信濃地区の両まちづくり委員会は、これから世代の意見を最大限に尊重して、迅速かつこどもをまんなかに置いて、児童生徒にとって良い学びの環境をつくることを強く願って、2つの小学校の再編を要望することにしました。
- ここに至るまでの検討については、この審議会の議論を重ねてきた第一次方針の中でも、特にこどもをまんなかに置いて、児童生徒にとってよりよい学びの環境を作ること、そして、学校は地域コミュニティの拠点であるとともに、地域の将来の担い手や支え手となる人材を育む場であるという、この2点を大切に検討してきたところです。これも基本的には、グランドデザインに組み込まれています。
- 最終的に要望書を提出に至った理由は、現在の児童生徒数の推移の将来推計を考えると、3校それぞれが分離型で存続していくことはもう限界があるということです。令和5年度から上村保育園、和田保育園の合同保育も始まっており、合同保育を経験した園児が、小学校進学すると分かれてしまうということがないように、小学校も一つにしていくことを要望した方がいいだろうという話になったためです。
- 将来の学校のあり方が明確に示されない中で、不安を抱えながら子育てをされている保護者の皆さん、一日でも早い方向性を見出すことが必要であるという判断で、要望書の作成に至りました。要望書の内容については、先ほど秦野教育次長から説明があったので省きます。
- その後、要望書の提出をしたことを両地区的全住民に、両地区まちづくり委員会会長からのメッセージを入れ、経過及び要望内容を周知してきました。その周知した内容については資料 No.1 3にありますのでご覧いただきたいと思います。遠山郷学園だよりということで、「子供は地域の宝」というタイトルで、南信濃の遠山会長、上村の前島会長のメッセージを入れ、全戸配布し周知してきました。
- また、学校の配置・枠組みについては苦しい判断でした。地域が検討を行うということは非常に大変であり、公式の会議だけでも30回以上、それ以外も含めれば、50回はくだらないと思います。資料 No.12をご覧いただき、全ては読みませんが、遠山郷学園会議等で様々に検討してきたことを時系列で掲載しておりますので、またお目通しいただければと思います。
- 今回の私からの報告では、配置・枠組みのことだけをクローズアップした話になりましたけれども、やはりこれから学校のあり方につきましては、学校再編ありきではなく、まちづくり委員会としてこどもをまんなかに、児童生徒が通いたい学校、そして遠山郷らしい魅力ある教育環境を実現できるように、学校づくりに取り組んでいかなければならないと考えています。
- 井出委員がかねてよりおっしゃっている「学校づくりは地域づくり」ということを大切にし、まさに遠山郷に住む私たちが主体的に取り組んでいきたいと考えています。
- 今後、避けて通れない課題が私たちの地域には多くあります。引き続き、市教育委員会、学校関係者、保護者、それから地域の皆さんとの協議を進める中で、より良い形に向かっていければと考えています。他の学園の皆様も遠山郷とは随分状況が異なると思いますが、この議論を参考にしていただければ幸いです。

(3) 個人ワーク

(4) グループワーク

## (5) グループワークの結果を発表・共有

(Aグループ)

(後藤会長)

- 遠山郷学園の先行事例という形での学びということで、こどもをまんなかに置いてという視点と、委員それぞれの立場または地域ということも大事な柱にしながら意見交換ができました。保護者、地域の皆さんとのところで言いますと、とにかく地域の人口減少、こどもの数の減少という危機意識があり、今回の要望書に、2地区のまちづくり委員会が共に同じことを書いている点が非常に重要だということを学ばせてもらい、この点にたくさんの意見が出ました。
- 具体例としましては、要望書で触れてありましたが、保育園の園児が2つの小学校に分かれいくという課題について、他の地域で実際に保育園から一緒に学んだ園児が2つの小学校へ分かれたり、2つの学園にまたがる学校もあるといった課題とも重なりました。これは、遠山郷学園から学ぶとともに、その他の地域においても課題となっているということでした。
- そして、もう一つ大きなことは、まちづくり委員会と学校運営協議会が、ひとつにまとまりながら動いている点です。それは危機意識から来ているのだろうということで、共通認識を持ったところですが、それぞれの委員の皆さんからは、ここがうまくいってないのではないかという発言が多くありました。このことは、今後考えていく上で、大事な具体的な視点だと思います。つまり、これは教育委員会の課題の方にも入っているし、うまくいっているという場合にも入っているということは、そういった理由です。
- 教育委員会の関係で言いますと、保護者に課題を明確に伝えているということ。また、逆に改善点では、保護者や地域に課題を明確に伝えることが大事だということにもなります。保護者や地域の危機意識ということも大事ですが、課題を明確に伝えることが学んだところになります。
- それからもう一点だけ触れておきます。施設分離型ということで、先ほどの小学校入学の時点で分かれしていくことと同じですが、ネックになっているのが通学のことということが、話題になりました。ここは配置・枠組みのときに重要だということで、視点をみんなが共有したところでございます。いくつか他にも書かれていることはあります、遠山郷学園から学んだこと、それから、それを基に、それぞれの地域の課題が見えたということで、話題になったところを発表させていただきました。

(B グループ)

(三浦副会長)

- B グループは大切にすべき点、今後の参考になる点というところから発表します。A グループでも出ておりましたが、こどもまんなかという部分です。これに関して、こどものことを考える上で、まず保護者の意見を聞くということはとても大切なことで、遠山郷学園会議の取組では、保護者の声として「迅速に進めてほしい。」といったものに背中を押されたというお話をされました。また、保護者の意見を聞く際には、保育園をはじめとした未就学児、そして小学生、中学生等、子育て中の保護者の方の意見を聞いて、こどもまんなかというものを考えていく、これが大切ではないかという意見が出されております。
- 市教育委員会や市の関わり方に關しましては、市教育委員会も一緒に議論してくれたというお話がありまして、学校再編の取組を進めて考えていく上で、とても大切なことであろうという意見が出されております。
- 続いて、取組の障害となる点、気になる点について、まず、地域や保護者の取組では、先ほどはこどもまんなかでしたけれども、ここでは地域コミュニティを真ん中にといった視点がなくなってしまうということは、地域にとって本当に問題であるという点に関して意見が出されました。私たちのグループには玉置さんもいらっしゃいまして、もっと詳しいお話をお聞きしましたが、大変なご苦労されているというお話を聞いております。一つ一つのことを言いにくい、責任は誰が取るのか等という話になってきます。学校がなくなってしまうという地域の思いや考え方は一つの障害といったものになり得ます。
- もう一つは、将来が見てこない、どういった時に危機感を持たなければいけないのかという将来が見えないという意見も出されました。遠山郷学園では、危機感があつてというお話でしたが、他の地域にしますと、いつ危機感を持ってばいいのかわからないということがあります。そうなってきますと、市教育委員会の考え、取組の支援などというところでは、あるべき姿の方針を示していくと言った、市の姿勢も大切で、学校の運営コストであるとか、将来の財政の見通し等、市民

の方が知る由もない視点から、地域の危機意識を認識してもらい、議論を始めるタイミングを各地域で計っていくということが大切なのではないかという意見が出ております。以上です。

(C グループ)

(山浦委員)

○私たちのグループは5名いますので、さまざまな視点から濃密な議論ができたと思いますが、全てを取り上げるわけにはいきませんので、概要をお話します。まず大事にすべき点、今後の参考になる点の部分ですけれども、遠山郷学園の取組について説明していただいたわけですが、その説明から重要な点をキーワード的に申し上げますと、地域の主体性、分析的思考とその解決に向けた様々な実践、学校と地域でつくる学びの未来を考えていること、飯田学園構想に関係した情報収集力やスピード感、対話と合意形成を大事にしている点など、学ぶべき点がとても多かったです。しかし、地域の中に入つてみると、住民の温度差があつたり、問題意識の違いがあつたりということで、キャッチフレーズは「こどもまんなか」にとは言っているけれども、やはり自分中心になっている部分がありませんかというようなご意見もありました。そういう中で、やはり市教育委員会では、常に課題とミッションを共有しながら、その地域の伴走に徹してくれているという点で、寄り添う姿勢というのはありがたいなということを感じています。

○取組の障害の部分についてですけれども、遠山郷学園のように児童生徒数の減少という緊急的な課題がありすぐにやらなければいけないというところはありますが、地域によってはまだまだ大丈夫だというようなことから、学園構想や学校のあり方についての問題意識の低さがあるという意見もありました。また、既存の組織である学校運営協議会やコミュニティスクール、それから学園地域コーディネーターの配置ということで、それぞれの機関の役割や仕組み、どのようなシステムで動いていけばいいのかということは、今後整理が必要だという意見がありました。更に、学園内で組織を立ち上げていく時の委員の選出は最も大事なポイントになってくるという意見もありました。

○最後に、このあり方審議会でこれから議論していくなければならない点については、これから各学園の優先順位をどうすればいいのか、緊急性や重要性が高い学園地域は早くやるとか、あるいは地域が主体的に動いているところを早くやることではなくて、やはりどのような順位性を持ちながらやっていくのかという点が一つ。それからもう一つは、今までの学校のあり方審議会の議論で、目的と目的地と道のりは明確になっているので、これからは、例えば施設分離型や施設一体型等のどういう乗り物に乗っていくのかということをこれから選択をしていかなければいけないと思います。遠山郷学園は、1小学校1中学校で、施設分離型という乗り物に乗っていきますという選択をしたわけですが、これから他の学園も、どういう乗り物にするかということは議論していかなくてはならないので、そういった乗り物の見通しは、この学校のあり方審議会で提案をしていくことが大事になってくるのではないかという話になりました。以上です。

## (6) 坂野委員及び井出委員からコメント

(坂野委員)

○まず一点目ですけれども、こどもをまんなかに置いてということについては、ほとんどのグループで共有されていたかと思います。問題となるのは、ここにいる審議会委員の方々は共有できていますが、他の方々がどれくらいその意識があるかということは考えておく必要があると思います。

○二点目として、市のサポートのことですが、今の市のサポートは良いのではないかということが、グループの発表から読み取れました。つまり、対話型で共にやっていくという姿勢が、関係者の中では共有されている。ただし、これまで議論に加わっていない方々に対して、市教育委員会の姿勢や立ち位置をどのように伝えていくかが課題になってくるかと思います。

○三点目になりますが、今後に向けて改善した方が良い点ですが、遠山郷学園会議の取組から、多少伸びたが、先にいつまでに決めるかという期限を定めていたことが重要で、学校のあり方の方向性について誰が決めるかということが問題になるところであります。先に市教育委員会が示してしまうと、出口が決められていて地域としてやりたくないという思いが出てしまうが、地域の方々の中で、期限を定めたということがまさに良いプロセスなのだと思います。

○四点目についてですが、遠山郷学園会議の取組のお話にもありました、会議の回数が非常に多くなったということで、参加している委員の方々の負担が生じてしまっています。その負担感をどのように捉えていくかが大切で、相互理解を深めるための手続きであるというような捉え方を共有できると良いかと思いました。以上です。よろしくお願ひします。

(井出委員)

- それぞれのグループ発表の中でほとんど大事な部分に触れてはいますので、それを踏まえていくつかお話をします。
- 一つは、遠山郷学園をサンプルに色々と話し合いをしましたけれども、これが例えれば、緑ヶ丘学園や旭ヶ丘学園といった地域の問題を考える時には、全く違った問題が出てくるだろうということです。つまり、非常に良い進め方をしているけれども、これは遠山郷の児童生徒数の急激な減少という、非常にわかりやすい問題があって、それをみんなで考えていくと当事者意識を持って話し合っていったという、良い組み合わせが良い関係ができていたから進んでいったところがあります。逆に、大きい規模の学園は、児童生徒数は減っていないし、地域はますます広がっているというところで、同じモデルとして考えることはできません。こここのところは先ほど最後のグループの乗り物議論をどうしていくかというところに繋がっていくと思います。
- 二つ目は、これからどういう乗り物に乗っていくのか考える時に、重要な視点は自治体が今後その個々の地域をどのように発展させていくかとしているのかということです。つまり、住民福祉をどのような形で充実させていくかとしているのかという視点。その中で大きな役割は教育があるわけですけれども、学校再編という形で矮小化しないように、あくまで飯田市全体の地域の活性化、行政サービスの充実といった視点から捉えていくことが必要だと思います。なので、ぜひ、教育委員会と地域の人たちだけで話をまとめさせられないように、広く、市としてはどういう方向性を持っているのかということを、常に市長部局とタイアップして考えていく必要があろうかと思います。今後、特に本日指摘された今後どういう乗り物に乗っていくかとしているのかという視点は、学校教育だけの問題ではないので、ぜひ、そういう議論も進めていくようにしてください。以上です。

#### (7) 個人ワーク

### 6 連絡事項

事務局から会議録及び次回日程に関して事務連絡

### 7 閉会挨拶

(三浦副会長)

- 委員の皆様お疲れ様でした。グループワークを通して、私自身も本当に自分事として深く、これから学校のあり方に関する話題を考えることができたと思います。こうあるべきではなく、どうあるべきなのかということを議論していくことの大切さを改めて感じました。そして、坂野先生からは、議論に加わっていない市民の方々がたくさんいるという認識を持った上で対話していくことが大切であるといった視点をいただきました。また、井出先生からは、遠山郷学園はわかりやすい共通課題があり、そういう特殊な事例からもたらされる、学校のあり方を考えていく視点というものを持っています。この視点をしっかりと持つなければいけないといったところをご助言いただいたかと思います。
- また、どのような乗り物に乗るかという C グループからの発表にもあったかと思いますが、井出先生からも触れていただいております。市教育委員会や飯田市、行政の方からも飯田市がこれからどのような方向に向かっていくのかというところを示していただいて、地域の住民と寄り添っていただきながら、同じ土俵に立って議論していただきたいと、このワークの中で感じたところです。
- 委員の皆様はどのようなご感想を持たれましたでしょうか。感想になってしましましたけれども、私は以上になります。本日はありがとうございました。

## 「遠山郷学園会議」の設置と検討の経過

### 1 これまでの遠山2地区の教育に関する特徴的な取り組み

- |                   |   |
|-------------------|---|
| ア 平成29年度          | ・上村小学校が小規模特認校に指定 (H30年度から特認校児童の受入スタート)<br>・ユネスコスクールの検討開始<br>・農山村SDGs研究所（旧立教大学ESD研究所）との連携（地域住民学習会・教職員へのサポート開始） |
| イ 令和3年度           | 遠山3校合同学校運営協議会が発足（毎年複数回開催）   |
| ウ 令和4年度           | 遠山郷二園三校グランドデザインの策定 (R5年度に一部修正)  |
| エ 令和4年度           | 南信濃地区で「やまと親子留学事業」始動（親子留学家族の受入スタート）  |
| オ 令和4年度           | （保育園の）ショート留学事業（保育園の短期体験事業）スタート  |
| カ 令和5年4月          | 上村保育園、和田保育園の合同保育開始  |
| キ 令和7年2月          | 遠山三校ユネスコスクールの登録   |
| ※上記の他、遠山郷フォーラムの開催 |   |

#### ○ポイント

これまでに遠山2地区では、園児・児童・生徒数の減少をいち早く見据え、それぞれの地区での取組と合わせ、保育園から中学校までの12か年の子ども像を共有する「二園三校のグランドデザイン」を定めてきている。

※学校のあり方に関しては、教育委員会での議論よりも早く課題認識を持ち進めてきている。

### 2 遠山郷における学校のあり方に関する検討

令和5年10月に市教育委員会より「学園構想」について説明を2地区まちづくり委員会が受け、令和6年1月に検討組織「遠山郷学園会議」を設置。

#### (1) 遠山郷学園会議の主な活動

- ①飯田市教育委員会が目指す「遠山郷学園」の特色と魅力ある教育活動について
- 「遠山郷二園三校グランドデザイン」を踏まえた教育内容、教育課程及び具体的な特設カリキュラム研究
- ②遠山地区の小中学校のこれからの配置・枠組みについて
- ③遠山郷学園と学校運営協議会、コミュニティスクールのあり方について
- ④遠山地区の園児、児童及び生徒数の確保を目的とする「教育移住の推進」について

#### (2) 学校関係団体との連携・検討事項

- (ア) 遠山郷学園会議での優先検討内容 ↗「遠山地区の小中学校のこれからの配置・枠組みについて」
- (イ) その他の検討事項
  - a 学校運営協議会での検討事項
    - (a) 「遠山郷学園」の特色と魅力ある教育活動（教育課程及び具体的な特設カリキュラム研究）
    - (b) 遠山郷学園と学校運営協議会、コミュニティスクールのあり方について
  - b まちづくり委員会での検討事項、取り組み内容
    - (a) 遠山地区の園児、児童及び生徒数の確保を目的とする「教育移住の推進」について

#### (3) 令和6年度の遠山郷学園会議の検討目標

- ア R6年6月 「遠山郷学園」構想の確認（地域協議会へ諮問の場合は答申）
- イ R6年上半期 遠山中学校の小規模特認校指定の方針確認

- ウ R6年度中 遠山地区小中学校3校の配置・枠組みについて方針決定  
エ R7年4月 遠山中学校の小規模特認校制度スタート
- ・現段階で、令和7年4月から遠山中学校の小規模特認校の指定まで行われた。  
・今後、「子供たちを真ん中において、子供たちにとってよりよい学びの環境」をどの様に行っていくかといった点に関し、保護者の皆さんと意見交換を行いつながら進めていく。

#### (4)これまでの遠山郷学園会議等の開催経過

- ア 令和6年1月29日 第1回遠山郷学園会議（小委員会）開催  
※小委員会のメンバーは、まちづくり副会長、公民館長、3校保護者代表、若年層代表等9名。
- イ 令和6年4月25日 第2回遠山郷学園会議（小委員会）開催
- ウ 令和6年5月31日 第3回遠山郷学園会議（小委員会）開催
- エ 令和6年6月10日 第1回遠山郷学園会議（全体会）開催  
※全体会のメンバーは小委員会委員、3校校長、地域協議会会长、教育関連団体代表等23名。  
正副委員長の指名、組織活動の方向性の決定、大町市の取組の学習
- オ 令和6年8月28日 第2回遠山郷学園会議（全体会）開催  
※第1回の振り返り、これまでの経過報告、学校の配置枠組みを今後の検討課題とすることの確認  
今後の検討に当たっては、それぞれの課題に対する関係者による部会で検討
- カ 令和6年10月10日 第1回遠山郷学園会議（総務部会）開催  
※総務部会のメンバーは、まちづくり正副会長、公民館長、3校校長等9名。  
特認校指定に関する検討、三校の施設形態の検討、遠山郷フォーラム検討
- キ 令和6年11月6日 八坂小中学校視察  
※施設分離型の義務教育学校の取組視察。山村留学センターの視察
- ク 令和6年11月30日 遠山郷フォーラム  
※2園3校グランドデザインに基づく各学校の取組の発表、意見交換の実施。
- ケ 令和7年1月28日 遠山郷学園会議正副委員長・まちづくり会長・公民館長会議  
※配置・枠組みに関し、二地区それぞれで子育て世代との意見交換を行う方向性を確認。
- コ 令和7年3月27日 遠山郷学園会議正副委員長・まちづくり会長・公民館長会議  
※配置・枠組みに関する検討。2地区の方針(案)協議。
- サ 令和7年4月24日 遠山郷学園会議全体会議  
※配置・枠組みに関する検討経過及び2地区の方針(案)報告

#### (5)保護者等との懇談経過

- ア 令和6年4月～ 遠山3校の各PTA総会で「遠山郷学園会議」の取組説明
- イ 令和6年4月～5月 遠山3校各校学校運営協議会で「遠山郷学園会議」の取組説明
- ウ 令和6年5月17日 遠山3校合同学校運営協議会で「遠山郷学園会議」の取組説明
- エ 令和6年5月25日 遠山3校保護者懇談会で「学園構想」について意見交換
- オ 令和6年7月30日 和田小学校保護者との意見交換会
- カ 令和6年8月27日 遠山郷学園会議玉置委員長学校訪問（遠山中・和田小）
- キ 令和6年11月1日 3校保護者懇談会（2拠点とオンラインとのハイブリット懇談）
- ク 令和7年2月17日 南信濃地区子育て世代意見交換会  
※配置枠組みに関する意見交換
- ケ 令和7年2月19日～上村地区保護者に「学園構想」に関するアンケート実施

コ 令和7年4月18日 和田小学校PTA説明・上村小学校PTA説明

※配置・枠組みに関する方針(案)について説明

サ 令和7年4月28日 遠山中学校PTA説明

※配置・枠組みに関する方針(案)について説明

(6) まちづくり委員会 ※配置・枠組みにおける検討のみ記載。学園会議に関する事項は随時報告

ア 令和7年2月18日 上村まちづくり委員会定例会にて経過報告及び方針案を検討

イ 令和7年3月25日 南信濃まちづくり委員会定例会にて経過報告

ウ 令和7年4月15日 南信濃まちづくり委員会定例会にて要望書の内容検討

エ 令和7年4月18日 上村まちづくり委員会定例会にて要望書の内容検討

オ 令和7年4月25日 上村まちづくり委員会総会にて、要望書を提出することに関し報告

カ 令和7年4月30日 南信濃まちづくり委員会総会にて、要望書を提出することに関し議決

(7) 地域協議会、教育に関する地域団体との懇談会経過

ア 令和6年5月2日 上村地域協議会で「学園構想」についての勉強会を開催

イ 令和6年5月7日 南信濃地域協議会で「学園構想」についての勉強会を開催

ウ 令和6年6月 上村(19日)・南信濃地域協議会(27日)にてあり方に関し意見を付し回答

※意見概要：学園構想を令和7年4月から開始すること、遠山中における小規模特認校の実施について

エ 令和6年7月19日 南信濃地区「市長と語るまちづくり懇談会」

オ 令和6年8月20日 上村地区「市長と語るまちづくり懇談会」

カ 令和7年3月21日 臨時学校運営協議会開催(和田小・遠山中のうち南信濃関係者委員と意見交換)

キ 令和7年3月24日 南信濃1500委員会メンバーとの意見交換

ク 令和7年4月25日 上村小・和田小学校学校運営協議会説明

ケ 令和7年5月2日 遠山中学校学校運営協議会説明

コ 令和7年5月2日(予定) 上村・南信濃地域協議会

※両地区まちづくり委員会が飯田市及び飯田市教育委員会へ要望をすることに関し審議予定。

(8) 小中学校関係との協議

ア 令和7年4月3日 遠山三校校長会へ配置・枠組みの検討結果の説明

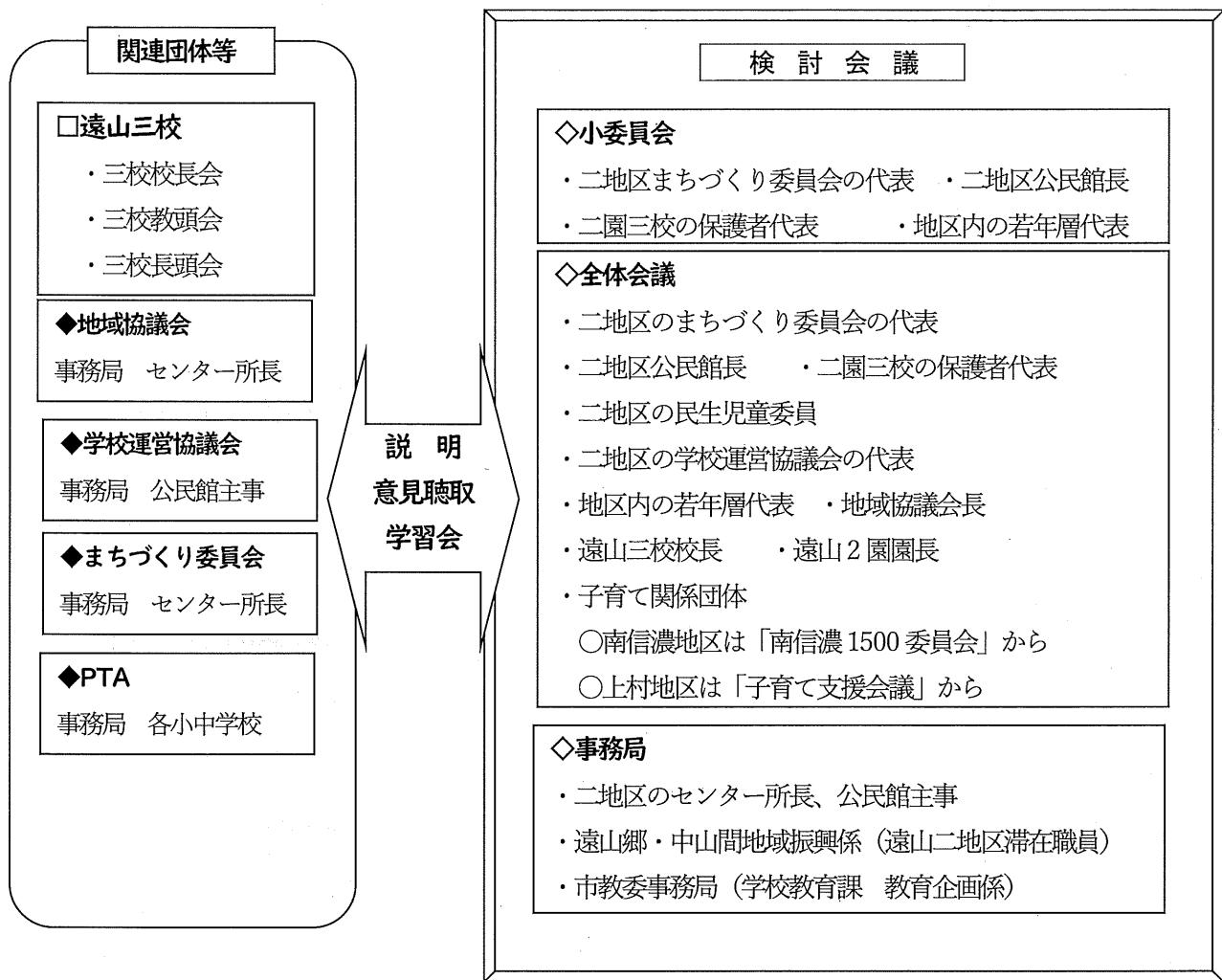
イ 令和7年4月8日 遠山三校校長会へ配置・枠組みの検討結果の説明

ウ 令和7年4月18日 遠山郷学園校長会へ要望書(案)について説明(教職員の要望含む)

3 その他(今後の地域対応・遠山郷学園会議組織体制)

飯田市・飯田市教育委員会への要望書提出後に、学園通信を地区内へ配布。(5/8 南信濃、5/15 上村)

## 検討組織体制図



### ○ 遠山郷学園会議全体会議と小委員会の役割について

- (ア) 遠山郷学園会議の小委員会は、検討事項を多様な視点で調査、研究（視察等）及び検討する。
- (イ) 遠山郷学園会議の全体会議は、小委員会での検討内容を多様な立場の委員により議論を深め検討する。
- (ウ) 遠山郷学園会議の検討事項は、方針を決定する場合は、最終的にはまちづくり委員会で検討し決定する。
- (エ) 検討事項の方針を決定する場合には、関連する団体等との意見聴取や懇談を積極的に行う。

### ※特記事項

当初は小委員会としていたが、第2回全体会議において、課題が多岐にわたることから課題ごとにメンバーを選出し議論していくことを確認。

# 遠山郷学園だより

2025年5月発行

発行：上村まちづくり委員会

南信濃まちづくり委員会

編集：遠山郷学園会議

## 子供は地域の「宝」

～こどもたちが通いたい、保護者も地域の人も学ばせたい、

そして、先生が生きがいをもって働きたい学校づくりをめざして！～

南信濃まちづくり委員会 会長 遠山 典男

地域の皆様には、日頃よりまちづくり委員会の活動につきまして、ご理解とご協力を頂き感謝と御礼を申し上げます。

さて、今年の4月から「遠山郷学園」が施設分離型としてスタートしました。しかし、生徒数の減少により3校それぞれで存続していく事には限界があります。そのため、上村・南信濃両地区では、飯田市の他の地区に先駆けて今後のあり方について検討してまいりました。

現在、上村・和田保育園では合同保育を行っていますが、一緒に保育を受けた園児たちが別々の小学校へ入学する状況が生じています。学校のあり方の方向性が明確に示されない中で、不安を抱えながら子育てをされている皆様に、一日でも早い方向性をお示しすることが必要であると考え、2つの小学校をひとつに再編することの判断に至りました。上村小学校の施設を活用し、中学校は遠山中学校をそのまま活用する内容にて、決定機関である飯田市教育委員会へ要望することといたしました。

子供は地域の「宝」です。これからも、これまで以上に上村・南信濃両地域で支えていきたいと思います。そのためにも、子供が通いたい、親が学ばせたい、そして先生が生きがいをもって働きたい学校でなければなりません。

上村・南信濃両まちづくり委員会も飯田市や飯田市教育委員会への要望や協力要請をいたしますが、地域の皆様にも是非ともご理解とご協力をお願いいたします。

上村まちづくり委員会 会長 前島 道広

日頃より、まちづくり委員会の活動にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、以前より2地区で要望を続けてきた遠山中学校の小規模特認校指定が昨年10月に決定され、令和7年4月から遠山郷学園がスタートできたことは、2地区連携の大きな成果の一つであると感じています。

遠山郷学園が小規模であっても魅力ある9年間の教育環境を充実していくためには、これまで以上に遠山2地区が小中学校並びに保育園を支え、応援していく体制づくりが重要であると考えます。

飯田市の学園構想に基づいて市内の9学区が施設分離型の学園をスタートさせたわけですが、児童生徒数が最も少ない遠山郷学園においては、小中学校の配置については、早急に対応策を講じる必要があり、両地区まちづくり委員会及び「遠山郷学園会議」で何度も議論を重ね、遠山地区の未来にむけた学園づくりを地域と共に目指すために、小学校を一つに再編する要望を提出する考えに至りました。

この要望の実現に向けて、両まちづくり委員会で市及び市教育委員会と協議を進めてまいりますので、地域の皆様におかれましてはご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

### ◇飯田市の「学園構想」と小中一貫教育とは

・飯田市の小中学校28校を9つの中学校毎に学園として位置付けます。遠山2地区の小中3校は、「遠山郷学園」となります。

・小中一貫教育とは、「義務教育9年間でめざす子どもの姿」を決め、小中学校の先生が一つのチームとなって教育活動に取り組むことで、子どもたちの成長がより確かなものとなるようにめざします。

## ◇検討組織「遠山郷学園会議」の設置と検討目標について

- ・令和5年10月、飯田市教育委員会より「学園構想」について説明を2地区まちづくり委員会の役員がお聞きし、令和6年1月に学園構想を検討する組織「遠山郷学園会議」を設置しました。
- ・令和6年度の遠山郷学園会議の検討目標を次のとおり設定しました。
  - ア R6年6月 「遠山郷学園」構想を確認する（地域協議会へ諮問の場合は答申）
  - イ R6年上半期 遠山中学校の小規模特認校指定の方針を確認する
  - ウ R6年度中 遠山地区小中学校3校の配置・枠組みについて方針を決定する
  - エ R7年4月 遠山中学校の小規模特認校制度をスタートする
- ・これまでの遠山郷学園会議の検討経過は最終ページに掲載してあります。

## ◇遠山地区小中学校3校の配置・枠組みについて方針を決定

- ・遠山郷学園会議の令和6年度の検討目標であった「遠山地区小中学校3校の配置・枠組み」については、関係する皆さんとの懇談などを通じて、最終的に2地区のまちづくり委員会の役員との協議により以下の方針としました。

### 1 配置・枠組みについての方針

- (1) 現在の遠山3校の児童生徒数の現状と将来予測を考えれば、できるだけ早期に再編することが必要であることから、2つの小学校をひとつに再編する。
- (2) 再編する小学校は、上村小学校の施設を活用する。中学校は現在の遠山中学校をそのまま活用する。
- (3) 再編時期は、子育て世代や地域の不安を解消するために、できるだけ早期に再編すること。地域としては令和8年4月1日を要望する。

### 2 その理由

- ア 現在の児童・生徒数の推移及び将来推計から、3校それが施設分離型で存続していく事は限界がある。
- イ 令和5年度より上村保育園・和田保育園の合同保育がスタートし、それぞれの特色ある資源を活用した自然保育が展開されているが、一緒に保育を受けた園児たちが、別々の小学校へ入学する状況が生じている。
- ウ 学校のあり方の方向性が明確に示されない中で、不安を抱えながら子育てをされている皆さんに、一日でも早い方向性を見出すことが必要であること。

### 3 検討にあたって大切にしたこと

- ア 保護者との意見交換の中で、迅速に協議を進めてほしいとの意見が多く提案されていること。
- イ 検討するにあたっての基本は、「子どもを真ん中において、子どもたちにとってより良い学びの環境をつくること」を大切に議論した。
- ウ 学校は、地域コミュニティの拠点であり、地域の将来の担い手や支え手となる人材を育む場でもあることにも留意した。

### ◇飯田市及び飯田市教育委員会へ要望書を提出

- ・令和7年4月1日より、学園構想が施設分離型（今までと同じ）でスタートしました。
- ・そして、中学校区（遠山郷学園）における学校の配置と枠組みは、関係する地域における検討に委ねられています。
- ・そこで、遠山2地区では、昨年からの検討において、「遠山地区の小中学校3校の配置・枠組みについての方針」を決定しましたので、以下のとおり、その方針を、要望書として飯田市長及び飯田市教育長に提出しました。なお、この要望を受けて、飯田市で検討することとなりますので、決定ではありません。

令和7年5月7日

飯田市長 佐藤 健 様

飯田市教育長 熊谷 邦千加 様

### 遠山郷学園における学校の配置・枠組み等についての要望書

上村まちづくり委員会 会長 前島 道広  
南信濃まちづくり委員会 会長 遠山 典男

### ◇前文省略

### ◇要望事項

#### 1 遠山郷学園における学校の配置枠組みについて

- (1) 現在の遠山3校の児童生徒数の現状と将来予測を考えれば、できるだけ早期に再編することが必要であることから、2つの小学校をひとつに再編する。
- (2) 再編する小学校は上村小学校の施設を活用し、中学校は現在の遠山中学校をそのまま活用する。
- (3) 再編時期は、子育て世代や地域としての不安を解消するために、できるだけ早期に再編することに鑑み、令和8年4月1日を要望する。

#### 2 魅力ある教育活動の実現に向けた教職員の適正配置について

- (1) 飯田市独自の小中一貫教科「みらい創造科」の実現や小規模校ならではの特色ある教育活動や遠山郷の小中学校で培った地域学習を充実するためにも、国等の基準だけにとらわれず、教育力の低下や教員の負担増とならない教職員の配置を要望する。

### [要望内容の背景と趣旨]

◎上村及び南信濃の両まちづくり委員会では、これらの意見を最大限に尊重し、「迅速に」かつ「子どもを真ん中において子どもたちにとってより良い学びの環境をつくること」を強く願い、2つの小学校の再編を要望します。なお、「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針」で定められている、施設一体型、施設隣接型及び義務教育学校等の組立を早急に検討していただくことを併せて強く望みます。

◎小規模校においては、児童生徒数は少数ですが、授業の準備や運営など規模の大小に関わらず時間が必要となります。とりわけ、複式授業を導入している場合は時間的余裕がないことが想像されます。過疎地域にある小規模校で実践的な授業が行われるよう、国等の基準にとらわれない教職員の配置を要望します。

◇検討組織「遠山郷学園会議」のこれまでの検討経過や関係者との懇談経過は、次のとおりです。

### (1)遠山郷学園会議の開催経過

ア 遠山郷学園会議（小委員会）開催（R6.1.29、R6.4.25、R6.5.31）

※小委員会のメンバーは、まちづくり副会長、公民館長、3校保護者代表、若年層代表等9名。

イ 遠山郷学園会議（全体会）開催（R6.6.10、R6.8.28、R7.4.24）

※全体会のメンバーは小委員会委員、3校校長、地域協議会会长、教育関連団体代表等23名。

ウ 遠山郷学園会議（総務部会）開催（R6.10.10）※まちづくり正副会長、公民館長、3校校長等9名。

エ 大町市立八坂小中学校視察（R6.11.6）※施設分離型の義務教育学校及び山村留学センターの視察

オ 遠山郷フォーラム（R6.11.30）

※遠山郷2園3校グランドデザインに基づく各学校の取組の発表、意見交換の実施

カ 遠山郷学園会議正副委員長・まちづくり会長・公民館長会議（R7.1.28、R7.3.27）

※配置・枠組みに関する検討。2地区の方針(案)協議、作成。

### (2)保護者等との懇談経過

ア 遠山3校の各PTA総会で「遠山郷学園会議」の取組説明（R6.4～）

イ 遠山3校各校学校運営協議会で「遠山郷学園会議」の取組説明（R6.4～5）

ウ 遠山3校合同学校運営協議会で「遠山郷学園会議」の取組説明（R6.5.17）

エ 遠山3校保護者懇談会で「学園構想」について意見交換（R6.5.25、R6.11.1）

オ 和田小学校保護者との意見交換会（R6.7.30、R7.2.17）

カ 上村地区保護者に「学園構想」に関するアンケート実施（R7.2.19～）

キ 遠山3校の各PTA総会で「遠山3校の配置・枠組みの方針（案）」の説明（R7.4.18、R7.4.28）

ク 遠山3校の各校学校運営協議会で「遠山3校の配置・枠組みの方針（案）」の説明（R7.4.25、R7.5.2）

### (3)地域協議会、教育に関する地域団体との懇談経過

ア 上村及び南信濃地域協議会「学園構想」についての勉強会を開催（R6.5.2、R6.5.7）

イ 上村及び南信濃地域協議会「学園構想のあり方」関し意見を付し答申（R6.5.2、R6.5.7）

ウ 南信濃及び上村「市長と語るまちづくり懇談会」開催（R6.7.19、R6.8.20）

エ その他、教育関係活動団体等と懇談会（R7.3.21、R7.3.24）

### ◇今後の「遠山郷学園会議」の検討事項について

- ・地域の要望に基づいて、遠山郷学園の配置が現在の小中学校3校から「小等部（小学校）」と「中等部（中学校）」の2校に再編することが迅速かつ丁寧に進められるよう検討、協議が必要です。
- ・3校の教育の特徴や魅力を活かし、上村と南信濃地区の地域住民、保護者が共に学校と協働しながら、子ども達の学びや成長を支えていく「遠山郷学園としてのコミュニティスクール」の体制整備が必要です。
- ・地域の住民の皆様のご意見やご提案を、ぜひ遠山郷学園会議の事務局までお寄せください。

◆遠山郷学園会議事務局 ◆上村自治振興センター (0260-36-2211) 所長 野牧、公民館 井川

◆南信濃自治振興センター (0260-34-5111) 所長 林、公民館 小島



## 連携年間計画 2025

E S D の 実 践 ・ 交 流	<4月>	小中連絡会①
	<5月>	学園研究会・研修会① 学園避難訓練・引渡訓練
		学園絆交流会① 学園学校運営協議会①
		保小連絡会① 学園教職員授業参観
	<6月>	5・6年修学旅行・事前集合学習
		中学校体験入学① 学園民生児童委員懇談会
	<7月>	自磨の時間 学園研究会・研修会②
	<8月>	3・4年社会見学・事前集合学習 中学校清流祭
	<9月>	地域学校合同運動会
	<10月>	学園絆交流会② 学園学校運営協議会②
	<11月>	霜月祭 学園研究会・研修会③
	<12月>	中学校体験入学②・説明会 小中連絡会②
	<1月>	来入児一日入学 保小連絡会②
	<2月>	学園学校運営協議会③
	<3月>	自磨の時間

飯田市遠山中学校区

2025

(上村保育園 和田保育園 上村小学校 和田小学校 遠山中学校)

# 遠山郷学園グランドデザイン

遠山郷を愛し、誇りを持ち、  
未来と共に創る人づくり



遠山郷は星の美しい里  
河の美しい里人の心の里  
い里がある鳴らす

遠山郷学園学校運営協議会



## 遠山郷を愛し、誇りを持ち、未来を共に創る人づくり

保育園

ふるさとを愛する子ども  
心も体も元気な子ども

- 人との関わり
  - ・元気にあいさつをする
  - ・人の話に耳を傾けたり、自分の思いを言葉で伝えたりする
- ★友だちと遊ぶことを楽しむ
- 自然との関わり
  - ★自然の不思議さ、面白さを五感で感じる
    - ・飼育・栽培に興味をもつ
    - ・自然物を活用し、工夫したり表現したりすることを楽しむ
- 地域との関わり
  - ★伝統行事を体験し、地域に親しみをもつ
- 食を通して
  - ★収穫体験をし、地元の食材を知り、感謝の気持ちをもっていただく
- 遊びを通して
  - ★全身を使って遊び丈夫な体をつくる
    - ・遊びを工夫して楽しむ



郷土を愛し、社会の一員として自分で考え行動できる子ども

学校

### ESD・キャリア教育

- △ふるさとを愛し、ふるさとの中で生活している自分を見つめ、ふるさとの未来と自分たちの夢を創造していくける子ども
  - ★地域の良さにふれ、持続可能な遠山郷について考え方活動する ESD (持続可能な開発のための教育) の実践
    - ・ユネスコスクールとしての学び・さまざまな人たちとのつながり合い
    - ★三校絆交流会・各校の活動への乗り入れ・ESD 研修
  - キャリア教育の推進 ・全体計画・キャリアパスポート



### こころと健康・生活

- △「心も体も健康に自立した子ども」「人と関わりながら豊かな心を持ち、時と場に応じた言動ができる子ども」
  - ★児童生徒理解 ・授業参観・情報共有
  - 体力向上 ・運動習慣の形成
  - 健康教育の推進と家庭との連携
  - すべての児童生徒への理解と支援、多様性を受け入れる教育



### 安全・防災

- △自分で考動できる子ども
  - 12年間を見通した「防災・安全カリキュラム」
  - ★子ども達が考え方行動できる防災教育
    - ・地域、保育園と同時に実行する合同防災訓練
  - 地域と連携した防災体制の稼働
    - ・連絡会への参加 ・職員研修



### 学力と授業

- △自ら課題を見つけ、主体的に学ぶ子ども
  - ★自分なりに考え方もち、伝え合い学び合う授業
    - (複式授業、自由進度学習、遠隔授業など)
  - ・公開授業・授業研究会・乗り入れ授業
  - ・英語学習の連携



- 安全見守り・声かけ
- あいさつ・会釈・感謝の心
- 学校行事への参加、協力
  - ・参観日 ・音楽会 ・文化祭 ・お茶摘み ・学有林作業 ・環境整備
- ★人材派遣…総合的な学習・クラブ活動・遠山郷の霜月祭 等
- 放課後支援や見守り



地域

- ★長期休みにおける「自磨の時間（含 ESD 勉）」
- ★地域行事の開催 ・遠山郷の霜月祭 ・合同運動会 等
  - ・遠山郷フォーラム ・大学・専門機関との連携



- 基本的な生活習慣
- あいさつ・感謝の心・ことばづかい・マナー
- ★自然とのふれあい体験
- ★家庭での役割づくり（お手伝い）
- 家庭学習の環境作り・見とどけ・励まし
- 読書・読み聞かせ
- メディア（ゲーム・テレビ・スマート等）との上手な関わり
- OPTA 活動・地域行事への参加、協力

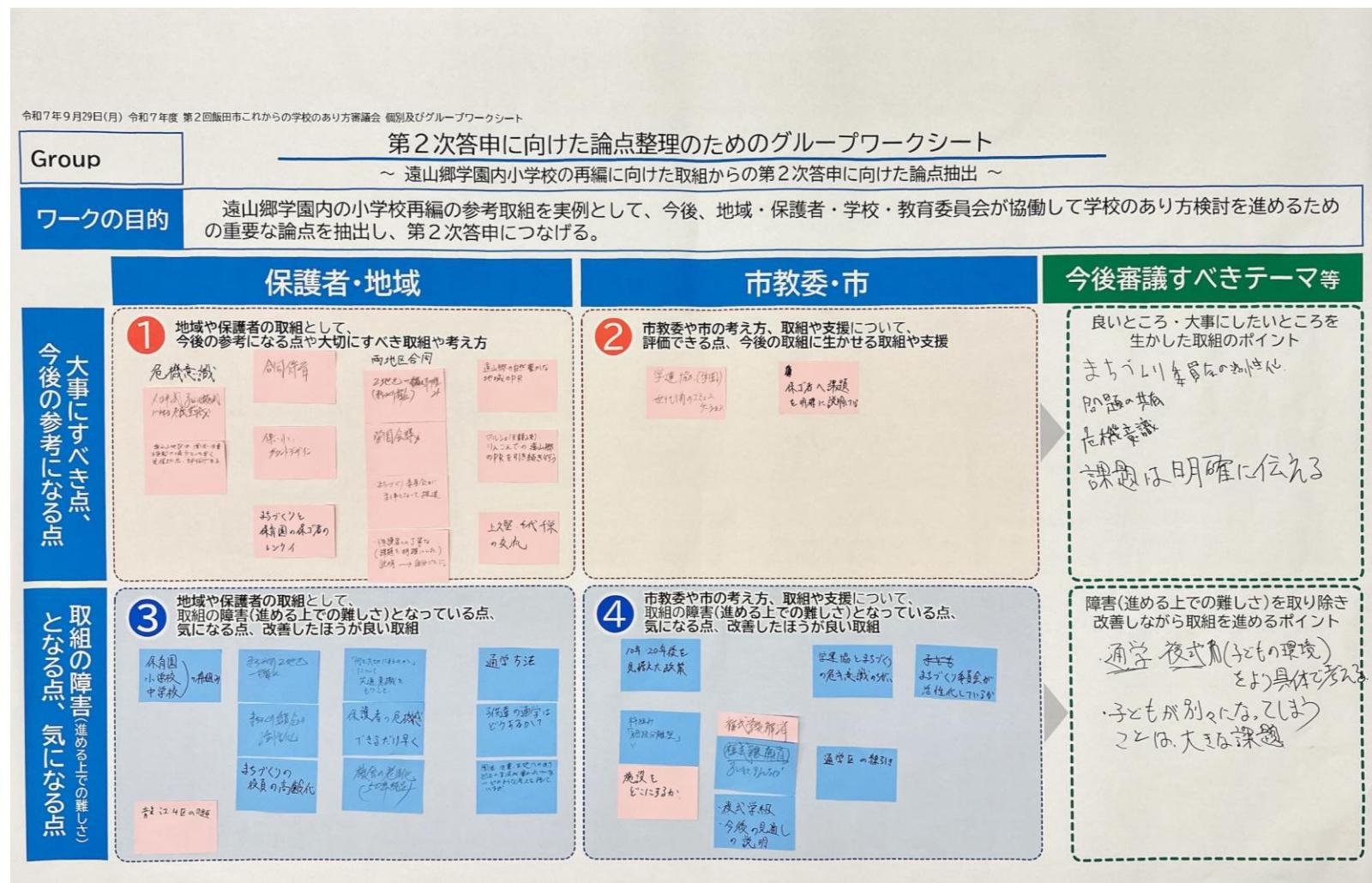


家庭

# 第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークの結果

## 令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク グループA

### ポイント - 結果共有のための発表から



- 「こどもをまんなか」の視点と委員のそれぞれの立場・地域ということも大事な柱に意見交換
- 「保護者・地域」については、とにかく地域の人口減少・急激な少子化を危機意識として持つことが必要との意見が多く出された。
- 具体的には、合同保育で一緒にいた園児が小学校で分かれてしまう課題が、2つの学園にまたがる地域の課題とも重なり、遠山郷学園だけでなく他の学園でも共通の悩みとなっていることが確認された。
- 遠山郷学園では、まちづくり委員会と学校運営協議会がひとつになっているが、こどもの教育環境の危機という共通認識があったものと分析した。他の地域では「ここがうまくいってないのでは」との意見も出され、このことは今後考えていく上で重要な視点であることが共有された。
- 「市・市教委」については、「保護者・地域」のところで危機意識が大事としたが、そのために、保護者や地域に課題を明確に伝えることが大事だという意見が出された。
- 今後、施設の配置について協議をする際には「通学」に関する部分がネックになる可能性があるとの発言もあった。
- 遠山郷学園の取組から、それぞれの地域の課題が見えてきたとの意見もあった。

## 第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークの結果

令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク クループ D

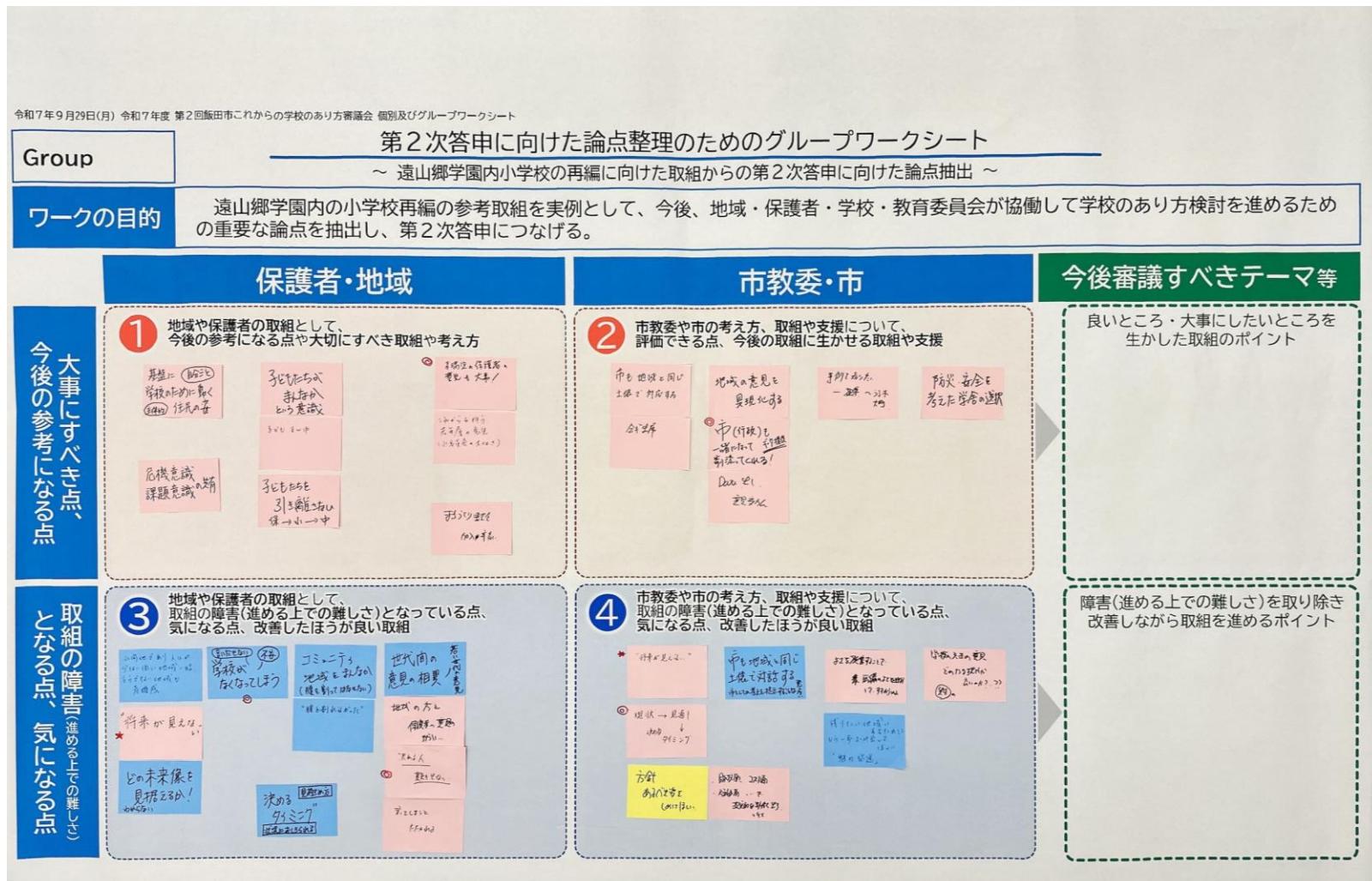
## ポイント – 結果共有のための発表から

- 参考になる点について「保護者・地域」の視点からは、地域が「こどもまんなか」を大切にしている点が挙げられた。特に「こどもの教育環境の面から迅速に進めてほしい」という保護者の声や未満児を含めこれから子育てをしていこうとする若い皆さんの声に傾聴することが重要との意見があった。「市・市教委」の視点からは、市教委も一緒に議論した点は、今後、学校再編を進めて考えていく上で、とても大切なこととの意見があった。

- 取組の障害となる点・気になる点について「保護者・地域」の取組では、取組を進めていく中で、学校がなくなってしまうという地域の思いを考えると意見を言いづらいとか、責任は誰が取るのかという話題もあり、実際に取組を進める上での現実的な障害の一つになり得るとの意見があった。

- また、「将来が見えてこない」ことへの不安、どういった時に危機感を持たなければいけないのかわからないとの意見があった。

- その裏返しとなるが、保護者や地域の皆さん、将来が見えないことへの不安を感じていることを考慮すれば、市や市教委は、取組の支援として、一定のあるべき姿や方針を示すことが大切との意見があった。学校運営、財政的なことを含め住民では知ることが難しい情報を含めて、議論を始めるタイミングを提示することが必要ではないかとの意見が出された。



# 第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークの結果

## 令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク

グループ C

### ポイント

- 結果共有のための発表から

令和7年9月29日(月) 令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 個別及びグループワークシート

### 第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークシート

～遠山郷学園内小学校の再編に向けた取組からの第2次答申に向けた論点抽出～

**Group**

**ワークの目的**

遠山郷学園内の小学校再編の参考取組を実例として、今後、地域・保護者・学校・教育委員会が協働して学校のあり方検討を進めるための重要な論点を抽出し、第2次答申につなげる。

**今後の参考になる点**

**大事にすべき点、気になる点となる点、気になる点**

**保護者・地域**

① 地域や保護者の取組として、今後の参考になる点や大切にすべき取組や考え方

- 地域の主体性
- 分析的実践、シナジー実践
- 豊かな地域づくりと未来
- 情報収集力
- スタート感

② 市教委や市の考え方、取組や支援について、評価できる点、今後の取組に生かせる取組や支援

- 対話と合意
- 保護者との意見
- 小学校が「つむぎ」いくことと保護者の連携が「育む」こと
- 管理制度

**市教委・市**

③ 地域や保護者の取組として、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組

- 問題意識の低さ
- 組織化(じしき)  
(CS・カネギー・アーヴィング)
- 委員の選出
- 委員会への情報共有化
- 実行力の不足
- 問題解決への取り組み
- 保護者と児童の居場所(学習環境)

④ 市教委や市の考え方、取組や支援について、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組

- 優先順位
- 実行の見通し

**今後審議すべきテーマ等**

良いところ・大事にしたいところを生かした取組のポイント

- 参考になる点として、地域の主体性、分析的思考とその解決に向けた様々な実践、学校と地域でつくる学びの未来を考えている点、情報収集力やスピード感、対話と合意形成を大事にしている点等が挙げられた一方で、地域の中でも温度差や問題意識の違いがあったり、「こどもまんなか」とは言いながら「自分中心になっている」部分も出てきてしまうのではとの意見もあった。
- 市教委は、常に課題とミッションを共有しながら、地域の伴走に徹してくれている点、寄り添う姿勢は大切だと意見があった。
- 取組の障害になっている点では、地域によって学園構想や学校のあり方についての問題意識の低さがあること、地域での議論に際しての仕組みや組織を立ち上げる際の委員の選出がポイントになるのではとの意見が出された。
- 今後このあり方審議会で議論していくこととして、あり方の検討をする学園の優先順位をどうすれば良いのか、これまでの審議で明らかにしてきた目的地と道のりを、どういう乗り物に乗っていくのかというところを議論すべきとの意見をまとめた。
- 遠山郷学園は、1小学校1中学校の施設分離型を選択したが、他の学園は、今後の課題であることを考慮すると、ある程度の選択肢はこの審議会で議論して提案していくことが大事ではないかとの意見が出された。

# 第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークの結果 令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 個人ワーク

## まとめ

### 個人ワークシートから

- グループワークを通じて大事だと感じた点、今後の議論して行く必要があると感じた点の自由記述まとめ①

#### 1 「こどもまんなか」を基本に据えて

- こどもを中心においた思考
- まちづくり委員会等を中心とするが、保護者の意見を聞いてこどもまんなかで
- こどもまんなかの視点
- こどもまんなかの考え方が最も大事
- こどもがどのような環境の中で育つことが良いことなのかを考える
- こどもをまんなかに、保護者も積極的に関与する必要がある
- こどもまんなかと言いながら、自分まんなかになりがち
- 保護者の関わりを増やすことでこどもまんなかに
- こども中心に
- 大人や地域の都合もあるが、こどもまんなかに全てを考えることの大切さ

#### 2 「学校づくりは地域づくり」の精神

- 学校運営協議会とまちづくり委員会の活性化
- 単なる行政の課題として受け止められていないか
- 学園内の地域間での温度差を埋める危機意識の醸成
- あらゆる年代への課題提起により合意形成がスムーズに進むのではないか
- スピード感を持って対応できる体制
- 思っているよりも世代間ギャップはない
- 地域の課題や問題点を明確にすることが大切
- 多様な意見があるのは当たり前、全部出して方向性を決めることが大切

#### 3 飯田市・飯田市教育委員会の寄り添う姿勢

- 地域に寄り添う市・市教委の姿勢は大切
- 行政があるべき姿や方針を示し同じ土俵で対話をする

#### 4 基本的な方針について議論を

- 市としてどのような乗りものに
- 長期的な視点からの配置・枠組みと足下で対応しなければならない部分
- 中規模若しくは大規模学校に関する方向性は
- ビジョンを明確にしていく
- 学園により状況が違うので全体のビジョンは難しい
- 少し先の将来の姿を示すこと
- 保護者や学園の主体的な検討を大切にするが、配置・枠組みをどう位置付けるかを審議会で議論し提示する必要がある
- 飯田市全体での方向性を持つ必要があるのか

#### 5 具体的な検討に入るため 一 優先順位を明確にする

- この先10年程度を目途に、優先順位をつけて取り組むべき
- どこの学園から議論をするか、優先順位を明確にしていく
- 具体的なアクションを起こすタイミングは
- 危機感を持つタイミング
- タイミングを明確に
- どの学園から協議を開始するのか

## 個人ワークシートから

- グループワークを通じて大事だと感じた点、今後の議論して行く必要があると感じた点の自由記述まとめ②

### 6 学園地域に学校を「残す」ための方策の検討を

- 小規模学校をその良さを生かして残す方向性
- 出発点は、少子化時代のこどもを取り巻く環境

### 7 喫緊の課題としての「複式学級の解消」

- 教育環境として、一定程度の人数がいた方が良いと思うが、規模はどうか
- 複式学級の解消に向けた順位づけが重要
- 児童生徒数が減少することを受け止め、複式にならない状態をめざす
- 複式学級にならない規模が必要

### 8 喫緊の課題としての「施設の老朽化」

- 建設後50年以上が経過する施設をどうするか
- 学校施設の後利用については、どう議論するか

### 9 飯田学園構想を進めるための施設形態

- 施設の形態について選択肢として伝える

### 10 地域での検討のあり方

- 少子化の現状と危機意識の醸成
- 課題提起の方法で意識の低さを解消
- 保護者に課題を明確に伝える
- 保護者と地域住民の温度差の解消
- 保護者、未就学児の保護者の意見をきちんと聞くことが重要
- 保護者の意見を大切にしてもらえるような話し合いの方法
- 保護者と教育委員会が話しをする機会があると良い
- 若年層(小さい子を持つ親も)の意見や考え方を大切に
- 保護者、地域、行政が一緒になって、この地域で学びたい、この地域に残りたいと思えるような教育をして行くために魅力を高めていくこと
- まちづくり委員会が主体となって、少ない意見も大切にした意見交換によりわだかまりを残さない議論を
- 地域で検討する組織と市や市教委との連携
- 検討組織の委員選出が重要
- 検討組織の人選が大切
- 協議をしていく手順
- 合意形成や決定プロセスのあり方

## グループワークの結果を踏まえた専門委員からのコメント

### 坂野委員コメント

- まず1点目ですけれども、こどもをまんなかに置いてということについては、ほとんどのグループで共有されていたかと思います。問題となるのは、ここにいる審議会委員の方々は共有できていますが、他の方々がどれくらいその意識があるかということは考えておく必要があると思います。
- 2点目として、市のサポートのことですが、今の市のサポートは良いのではないかということが、グループの発表から読み取れました。つまり、対話型で共にやっていくという姿勢が、関係者の中では共有されている。ただし、これまで議論に加わっていない方々に対して、市教育委員会の姿勢や立ち位置をどのように伝えていくかが課題になってくるかと思います。
- 3点目になりますが、今後に向けて改善した方が良い点ですが、遠山郷学園会議の取組から、多少延びたが、先にいつまでに決めるかという期限を定めていたことが重要で、学校のあり方の方向性について誰が決めるかということが問題になるところです。先に市教育委員会が示してしまうと、出口が決められていて地域としてやりたくないという思いが出てしまうが、地域の方々の中で、期限を定めたということがまさに良いプロセスなのだと思います。
- 4点目についてですが、遠山郷学園会議の取組のお話にもありましたが、会議の回数が非常に多くなったということで、参加している委員の方々の負担が生じてしまっています。その負担感をどのように捉えていくかが大切で、相互理解を深めるための手続きであるというような捉え方を共有できると良いかと思いました。以上です。

### 井出委員コメント

- それぞれのグループ発表の中でほとんど大事な部分に触っていますので、それを踏まえていくつかお話をします。
- 一つは、遠山郷学園をサンプルに色々と話し合いをしましたけれども、これが例えば、緑ヶ丘学園や旭ヶ丘学園といった地域の問題を考える時には、全く違った問題が出てくるだろうということです。つまり、非常に良い進め方をしているけれども、これは遠山郷の児童生徒数の急激な減少という、非常にわかりやすい問題があって、それをみんなで考えていこうと当事者意識を持って話し合っていったという、良い組み合わせが良い関係ができていたから進んでいったところがあります。逆に、大きい規模の学園は、児童生徒数は減っていないし、地域はますます広がっているというところで、同じモデルとして考えることはできません。こここのところは先ほど最後のグループの乗り物議論をどうしていくかというところに繋がっていくと思います。
- 二つ目は、これからどういう乗り物に乗っていくのかを考える時に、重要な視点は自治体が今後その個々の地域をどのように発展させていこうとしているのかということです。つまり、住民福祉をどのような形で充実させていこうとしているのかという視点。その中で大きな役割は教育があるわけですけれども、学校再編という形で矮小化しないように、あくまで飯田市全体の地域の活性化、行政サービスの充実といった視点から捉えていくことが必要だと思います。なので、ぜひ、教育委員会と地域の人たちだけで話をまとめさせられないように、広く、市としてはどういう方向性を持っているのかということを、常に市長部局とタイアップして考えていく必要があろうかと思います。今後、特に本日指摘された今後どういう乗り物に乗っていくかとしているのかという視点は、学校教育だけの問題ではないので、ぜひ、そういう議論も進めていくようにしてください。以上です。